

世 界 史

(問 題)

2016年度

〈 H28103419 〉

注 意 事 項

1. 試験開始の指示があるまで、問題冊子および解答用紙には手を触れないこと。
2. 問題は2～11ページに記載されている。試験中に問題冊子の印刷不鮮明、ページの落丁・乱丁及び解答用紙の汚損等に気付いた場合は、手を挙げて監督員に知らせること。
3. 解答はすべて、HBの黒鉛筆またはHBのシャープペンシルで記入すること。
4. マーク解答用紙記入上の注意
 - (1) 印刷されている受験番号が、自分の受験番号と一致していることを確認したうえで、氏名欄に氏名を記入すること。
 - (2) マーク欄にははっきりとマークすること。また、訂正する場合は、消しゴムで丁寧に、消し残しがないようによく消すこと。

マークする時	☒ 良い	☐ 悪い	☐ 悪い
マークを消す時	☐ 良い	☐ 悪い	☐ 悪い

5. 解答はすべて所定の解答欄に記入すること。所定欄以外に何かを記入した解答用紙は採点の対象外となる場合がある。
6. 試験終了の指示が出たら、すぐに解答をやめ、筆記用具を置き解答用紙を裏返しにすること。
7. いかなる場合でも、解答用紙は必ず提出すること。

I

次の問題文を読み、設問X・Yに答えなさい。解答はすべてその記号をマーク解答用紙の所定欄にマークしなさい。

世界最古の文明を生んだメソポタミアでは、最初期の都市国家や楔形文字などを生み出したシュメール人の登場以後も数多くの文明や王国が興亡した。^①この地の都市国家を最初に統一したアッカド人の王国が崩壊すると、シリアから侵入したアムル人がバビロン第1王朝（古バビロニア王国）を興し、第6代のハンムラビ王時代に最盛期を迎える。彼はシュメールの（ A ）などを継承したとされるハンムラビ法典を制定した。それに加えて、大規模な土木事業を推進して国土を整備し、商業も盛んにして中央集権的な国家を築いた。だが、この王国も、メソポタミアに進出したインド＝ヨーロッパ語系のヒッタイト人によって、前16世紀初頭に滅ぼされてしまう。すでに前17世紀中葉にアナトリアに（ B ）を首都とする強力な国家を建設していたヒッタイト人は、アナトリアで知られていた製鉄技術を発展させて鉄製の武器や戦車などをつくり、これらを駆使して国土を広げていった。そして、シリアへと領土を拡大していたミタンニ王国を服属させ、さらにバビロン第3王朝を建てたカッシートと争い、^②シリアの領有を巡ってエジプトとも競った。^③しかし、前12世紀、ヒッタイト王国もまた、（ C ）の侵入や内紛などで衰退し、北部メソポタミアを出自とするアッシリア人に滅ぼされる。前7世紀にメソポタミアで覇を唱え、エジプトをも征服して、短命ながら史上初の「世界帝国」を建設したのが、このアッシリア人だった。

メソポタミアはまた、青銅器や鉄器などに代表される物質文化のみならず、さまざまな精神文化の揺籃の地でもあった。都市の守護神を祀る祭祀システム、占星術、暦法、60進法、さらに旧約聖書やギリシア神話にも影響を与えたとされる（ D ）などを生んでもいる。のちの時代の塔建築の原型とされる^④階段状神殿の（ E ）や、ユダヤ＝キリスト教的伝統の中で制度化される1週7日制もまた、この地が起源だった。一部が「肥沃な三日月地帯」と地理的に重なるメソポタミアは、こうして人類史に大きな足跡を刻むことになる。

設問X 文中の空欄（ A ）～（ E ）に入るもっとも適切な語をa～dの中から1つ選びなさい。

- | | | | | |
|---|----------|---------------|-----------|-----------|
| A | a 十二表法 | b 『アヴェスター』 | c ブルグンド法典 | d ウルナンム法典 |
| B | a ハットウシャ | b ラガシュ | c ニネヴェ | d シドン |
| C | a アラム人 | b メディア人 | c リディア人 | d 海の民 |
| D | a 『神統記』 | b 『ギルガメシュ叙事詩』 | c アマルナ文書 | d 死海文書 |
| E | a バベル | b パゴダ | c カタコンベ | d ジググラト |

設問Y 文中の下線部①～⑤について、もっとも適切な解答をa～dの中から1つ選びなさい。

- ① メソポタミアの原義はどれか。
- a 肥沃な地域 b 川と川の間の地域 c 日が沈む地域 d 山に囲まれた地域
- ② アッカド人およびその王国の説明として、正しいものはどれか。
- a メソポタミア北部に興ったハム語系の農耕民で、彼らの言語であるアッカド語はオリエント世界の共通語となった。
- b 「四界の王」を称したサルゴン1世が前21世紀に築いたアッカド王国は、以後3世紀にわたって栄えた。
- c 選民思想と多神教に基づくアッカド王国は、ノモスと呼ばれる行政単位から構成されていた。
- d アッカド王国崩壊後、シュメール人によるウル第3王朝が建設された。

③ ミタンニ王国について、正しい説明はどれか。

- a 前2千年紀前半にユーフラテス川下流域を支配下に置いた国家で、エジプトや小アジアなどと広域的な交易を行った。
- b 前16世紀に成立したこの王国の住民は、大部分が先住民族のフルリ人だった。彼らは冶金術に長け、馬の調教技術も有していた。
- c 強力な神権政治を確立し、マルドゥク神を国家の守護神として信仰した。
- d 前15世紀頃に最盛期を迎えたこの王国は、前14世紀にヒッタイトに敗れたのち、最終的にエジプトに併合された。

④ ヒッタイト、エジプト両国が戦火を交えたカデシュの戦いについて、正しい説明はどれか。

- a エジプト中王国の王ラメス（ラムセス）2世とヒッタイト王ムワタリによるこの戦いに勝利したヒッタイトは、シリア全域を支配下に収めるようになった。
- b この戦いに勝利したエジプトは、以後、メソポタミアにまで支配地を拡大した。
- c この戦いは勝敗の決着がつかぬまま膠着状態に入ったため、両国は記録に残る最古の講和条約を結んで休戦した。
- d シャンポリオンによって解読されたロゼッタストーンは、この戦いの様子を記したものである。

⑤ 旧約聖書とギリシア神話について、誤った説明はどれか。

- a ユダヤ教徒の聖典である旧約聖書は、洪水神話を含む『創世記』や『出エジプト記』などのいわゆる「モーセ五書」を中核とする。
- b ユダヤ人の精神的支柱である旧約聖書は、ヘブライ人の伝承や神の啓示、予言者の言葉などをまとめたものである。
- c ギリシア神話はオリンポスの12神を中心とする古来の伝承を、主にホメロスとピンダロスが体系化したものである。
- d ギリシア神話の神々は多くが人間的な性格を帯びており、その神話観はローマ神話に受け継がれた。

II

次の1・2の文章を読み、設問X・Yに答えなさい。

- 1 1929年10月にはじまる世界恐慌は日本にも深刻な影響を及ぼした。翌1930年、日本は海軍軍縮条約に調印するが、それに対して右翼や軍部が反発したため、政情はしだいに不安定となった。1931年9月、日本の関東軍が奉天近郊で南満州鉄道爆破事件をおこして満州国を成立させると、中国の提訴によって国際連盟はリットン調査団を派遣した。しかし、その間にも日本は1932年1月に（ 1 ）で軍事行動をおこし、ついで1933年、調査団の報告によって国際連盟が満州国承認の取消を求める勧告案を可決すると、国際連盟からの脱退を宣言した。

そのころ中国は国民党政権のもとにあったが、それに敵対する中国共産党は、1931年に江西省の（ 2 ）に中華ソヴィエト共和国臨時政府をたてた。これに対して蒋介石が共産党への攻撃を継続したため、共産党は長征を敢行して根拠地を移した。

- 2 第二次世界大戦後、朝鮮半島を南北に分ける北緯38度線を境界として米ソ両軍がこの地に進駐した。1948年、南部にアメリカが支援する（ 3 ）を大統領とする大韓民国、北部にソ連が支援する金日成を首相とする朝鮮民主主義人民共和国が成立すると南北の対立は激化し、1950年6月、両国は開戦した。朝鮮戦争とよばれるこの戦争は開戦後3年を経て休戦協定が結ばれ、半島の分断は固定化した。そののち1960年代になると、大韓民国では軍人出身の大統領が独裁体制を確立し、1965年に日韓基本条約を締結して対日関係を正常化させたことなどにより、経済は上昇に転じた。

大戦後の日本はアメリカの占領下で日本国憲法が制定され、さまざまな民主的改革がおこなわれた。朝鮮戦争の勃発によって対日政策の転換を迫られたアメリカは、1951年9月、サンフランシスコ講和会議を開いて対日平和条約を締結するとともに（ 4 ）を結んで日本をみずからの西側陣営に組み込んだ。朝鮮戦争の物資調達や武器・装備の修理などに起因する（ 5 ）で経済が活性化し、国力を回復した日本は1956年に日ソ共同宣言に調印してソ連と国交を結び、同年12月に国際連合に加盟した。

設問X 空欄（ 1 ）～（ 5 ）に入れるのに最も適切な語をa～eのなかから一つ選び、その符号をマーク解答用紙の所定欄にマークしなさい。

- | | | | | |
|-----------------|------------|------------------|-------|-------|
| (1) a 武漢 | b 上海 | c 西安 | d 新京 | e 重慶 |
| (2) a 延安 | b 遵義 | c 北平 | d 長沙 | e 瑞金 |
| (3) a 朴正熙 | b 陳水扁 | c 金大中 | d 李承晩 | e 全斗煥 |
| (4) a 太平洋安全保障条約 | b 沖縄返還協定 | c 直通通信（ホットライン）協定 | | |
| d 連合国共同宣言 | e 日米安全保障条約 | | | |
| (5) a 新自由主義 | b 改革開放 | c 高度経済成長政策 | | |
| d 特需景気 | e 規制緩和 | | | |

設問Y 下線部①～⑤に関する設問について、最も適切な解答を(ア)～(オ)のなかから一つ選び、その符号をマーク解答用紙の所定欄にマークしなさい。

① 世界恐慌時における各国の政治経済政策の説明として誤っているものはどれか。

- (ア) フーヴァー米大統領は、第一次世界大戦の賠償と戦債の支払いを1年間停止するフーヴァー＝モラトリウムを宣言した。
- (イ) メキシコのカルデナス大統領は、土地を所有しない農民への農地分配、労働組合の育成、外国企業国有化などの政策を推進した。
- (ウ) 労働党をはなれたマクドナルドは、保守党および自由党の一部と挙国一致内閣をつくって首相となり、金本位制を停止したほか、オタワ連邦会議を開いてイギリス連邦外の商品に高関税を課す排他的な経済政策を断行した。
- (エ) ドイツのシュトレゼマンは、首相としてレンテンマルクを発行して通貨の安定と経済再建に取り組み、のち外相に転じてドイツの国際社会への復帰とヨーロッパの安定をめざした。
- (オ) スターリンの指導下で第1次五か年計画を進めていたソ連は、資本主義国との経済関係が希薄であったために世界恐慌の影響はあまり受けず、工業生産部門の計画目標をほぼ達成した。

② この海軍軍縮条約の説明として正しいものはどれか。

- (ア) イギリスは、ドイツに対してイギリス海軍が保有する艦船の35パーセント以内の軍艦保有を承認した。
- (イ) 三大海軍国とされたアメリカ・イギリス・日本の補助艦艇の保有比率をほぼ10:10:7とした。
- (ウ) 五大国が保有する主力艦の総トン数比率をアメリカ・イギリスは5、日本は3、フランス・イタリアは1.67とした。
- (エ) ドイツ海軍の兵力は1万5000人まで、軍艦保有量は10万トンに制限し、潜水艦と航空母艦の保有を禁止した。
- (オ) 締結国は国際紛争を解決するため戦争に訴えることを非難したことから、戦争違法化という考えが生まれた。

③ 国際連盟の説明として誤りを含むものはどれか。

- (ア) 国際連盟は、国際平和を維持するため、加盟国が集団で制裁を加える集団安全保障の原理を採用した。
- (イ) 国際連盟の本部はスイスのジュネーヴに置かれ、常設国際司法裁判所はオランダのハーグに置かれた。
- (ウ) 国際連盟は、ドイツ帝国やオスマン帝国の旧領を特定の国の保護下に置く信託統治の制度を用いた。
- (エ) 国際連盟の設立時、理事会の常任理事国は英、仏、日、伊であったが、1926年に独が常任理事国に加わった。
- (オ) 国際連盟は、フィンランドに侵攻した常任理事国のソ連を侵略国とし、1939年12月、連盟から除名した。

④ この戦争で、中華人民共和国は人民義勇軍を派遣して国連軍と戦った。休戦協定締結後における同国の政治家に関する説明として誤りを含むものはどれか。

- (ア) 林彪は、文化大革命を支持して毛沢東の後継者に指名されたが、クーデターに失敗し、亡命途上で死去した。
- (イ) 周恩来は、1954年にインド共和国を訪問し、ネルーと会談して平和十原則をまとめ、共同声明を発表した。
- (ウ) 劉少奇は、大躍進政策の失敗後に国家主席として混乱の收拾にあたったが、文化大革命で失脚し、獄死した。
- (エ) 鄧小平は、訪中したサッチャー英首相と香港返還問題を協議し、1997年に香港全域を返還することで合意した。
- (オ) 華国鋒は、毛沢東の路線継承を掲げて権力掌握をめざした四人組を逮捕し、経済の再建に取り組んだ。

⑤ サンフランシスコ講和会議と対日平和条約に関する説明として誤りを含むものはどれか。

- (ア) 中華民国はサンフランシスコ講和会議に招請されなかったため、のちに日本と日華平和条約を結んだ。
- (イ) インド、ビルマ、ユーゴスラヴィアはサンフランシスコ講和会議に出席しなかった。
- (ウ) ソ連、ポーランド、チェコスロヴァキアは講和会議に出席したが、対日平和条約の調印を拒否した。
- (エ) この条約によって、日本は朝鮮、台湾、北樺太、千島の領有権を放棄した。
- (オ) この条約は翌年4月に発効し、日本は主権国家として独立をはたした。

III

次の文章を読み、下の設問X・Yに答えなさい。

12世紀後半から13世紀のヨーロッパでは、都市の成長・貨幣経済の進展・中世文化の成立などを背景に、各国で王権の顕著な伸長が見られ、中世的な封建王政から絶対王政の時代へと移行を始めた。なかでも今日のフランスとイギリス（イングランド）にあたる両王国の発展は、やがて両者の真っ向からの激突へとつながっていった。これがいわゆる英仏百年戦争である。フランスでは、1328年にカペー朝が断絶すると、ヴァロワ朝のフィリップ6世が王位についた。しかし、当時のイギリス王 **A** が、カペー家出身の母をもつことを根拠に王位継承権を主張したことにより、両国の間に戦争が勃発した。この戦争には、この王位継承問題のほかにさまざまな政治的・経済的な要因があったといわれる。その一つは、イギリス国王がノルマン朝以来フランス国内にもっていた封建領土や、両国の君臣関係の問題であり、これを巡って、しばしば抗争が繰り返されてきた。さらに、毛織物工業地帯であるフランドルの支配に関する対立がおり、およそ1世紀以上にわたって、戦闘が継続した。

この戦争はほとんどフランスを戦場としたが、初期の戦いはイギリス軍の優勢のうちに推移し、フランス側では事件や混乱が相次いだ。しかし、シャルル5世が財政の立て直しを図って王軍を整備することで劣勢を挽回し、フランスはイギリス側に奪われた領土を回復した。一方、イギリスでは、新たにランカスター朝が成立し、ヘンリ5世の時代には反攻に転じて、再びイギリス側が優勢となった。また戦争の後半期においては、この時代に繁栄を誇ったブルゴーニュ公国とフランス王家との不和がフランス王家の国家統一上、最大の問題となっていた。シャルル7世が即位したころフランス王国は崩壊の危機にあったが、ジャンヌ＝ダルクがこの王を支えてオルレアンを防衛に成功したことをきっかけに、フランス側が順調に領土を回復し、最終的には **B** を除いた全国土からイギリス勢力を駆逐することで、戦争は終結した。

シャルル7世はその後、常備軍を設置するなど中央集権政策を推し進め、ジャック＝クールを登用して重商主義的な経済政策を実施し、フランスではようやく絶対王政への道が築かれた。一方、イギリスは王位継承をめぐる、国内貴族を二分するバラ戦争へ突入していったが、この混乱の中で、**C** 年にランカスター派のヘンリがヘンリ7世として即位し、テューダー朝を開いた。ヘンリ7世は、統治機構の整備を図り、集権化を推し進めた。こうして、フランス・イギリス両国いずれもが絶対王政の道へと突き進むことになった。

設問X 文中の空欄 **A** ～ **C** に入る最も適切な語を、a～dの中から一つ選び、その記号を所定欄にマークしなさい。

- | | | | | | | | | |
|---|---|-------|---|---------|---|---------|---|---------|
| A | a | ヘンリ3世 | b | エドワード1世 | c | エドワード3世 | d | エドワード6世 |
| B | a | ルーアン | b | シャンパーニュ | c | カレー | d | ボワティエ |
| C | a | 1475 | b | 1485 | c | 1488 | d | 1495 |

設問Y 文中の下線部①～⑥に関する次の問いについて、最も適切な解答をa～dの中から一つ選び、その記号を所定欄にマークしなさい。

- ① 中世文化の成立に関して述べた次の文の中で、誤っているものはどれか。
- 中世に設立された大学では、教養的科目として、一般的に自由7科といわれる、文法・修辞・弁証の初級3学科と算術・幾何学・天文・物理の上級4学科が教えられた。
 - トマス＝アクィナスは、アウグスティヌス以来のキリスト教神学に、アリストテレス哲学をとりいれて調和を図り、スコラ学を大成した。
 - 中世の建築様式としては、一般的にピサ大聖堂に代表されるロマネスク様式から、ケルン大聖堂に代表されるゴシック様式への転換があった。
 - フランス中世文化を代表する武勲詩『ローランの歌』は、カール大帝（シャルルマーニュ）によるイベリア半島のイスラーム征討時の、騎士ローランに関する英雄譚である。

- ② ヴァロワ朝に関連して、歴代の国王について述べた次の文の中で、誤っているものはどれか。
- a イタリアにおける覇権をめぐり、シャルル8世がイタリアに侵入して、イタリア戦争が始まった。
 - b フランソワ1世は、神聖ローマ皇帝カール5世とイタリアを戦場にして激しい闘争を繰り返した。
 - c シャルル9世の時代は、母親のマリ＝ド＝メディシスが政治を補佐した。
 - d ユグノー戦争時に、アンリ3世が暗殺されて、ヴァロワ朝の血統が途絶えた。
- ③ イギリスとフランスの領土問題や君臣関係に関連して述べた文の中で、誤っているものはどれか。
- a フランスのノルマンディー公は、イングランドに侵攻してノルマン朝を建設し、初代国王ウィリアム1世となった。
 - b フランスのアンジュー伯アンリは、国王ヘンリ1世としてイギリスのプランタジネット朝の創始者となった。
 - c プランタジネット朝第3代のジョン王は、フランスとの戦いに敗れて、フランスにおける領土の大半を失った。
 - d フランス南西部のギエンヌ公国は、12世紀半ばからイギリス王の領地となって、両国の対立の原因となった。
- ④ 百年戦争前半にイギリス、フランスで起きた出来事や混乱について述べた次の文の中で、誤っているものはどれか。
- a クレシーの戦いでは、イギリスの長弓兵の活躍により、イギリス軍がフランスの騎士軍などを打ち破った。
 - b フランスでペスト（黒死病）が大流行し、社会・経済の大混乱がおこった。
 - c フランス北部で、貴族を中心にジャックリーの反乱がおこった。
 - d イギリスでは、ジョン＝ボールを思想的指導者として、ワット＝タイラーの乱がおこった。
- ⑤ ブルゴーニュ公国に関連して、15世紀前半のブルゴーニュ公のもとで芸術活動を展開した画家は、次のうちの誰か。
- a プリュージェル b デューラー c ホルバイン d ファン＝アイク兄弟
- ⑥ テューダー朝に関連して、この時代におきた事件や事象などが、古いものから年代順に正しく並んでいるものはどれか。
- a 国王至上法（首長法）の初制定 → 一般祈祷書の初制定 → メアリ1世の反動政治 → 無敵艦隊（アルマダ）の撃破
 - b 一般祈祷書の初制定 → 国王至上法（首長法）の初制定 → メアリ1世の反動政治 → 無敵艦隊（アルマダ）の撃破
 - c 国王至上法（首長法）の初制定 → メアリ1世の反動政治 → 無敵艦隊（アルマダ）の撃破 → 一般祈祷書の初制定
 - d 一般祈祷書の初制定 → メアリ1世の反動政治 → 無敵艦隊（アルマダ）の撃破 → 国王至上法（首長法）の初制定

IV

次の文章を読み、設問X・Yに答えなさい。

ユーラシア大陸中央部に連なる草原地帯の最も東に位置し、最大の草原がひろがるのがモンゴル高原であり、古来、匈奴、鮮卑、突厥などの諸民族が遊牧社会を形成してきた。このモンゴル高原を中心にユーラシア大陸の多くの部分を支配する大帝国を形成したのがモンゴル族である。

モンゴル族は元来、大興安嶺山脈北部の森林地帯で半獵半牧の生活を営んでいたが、11世紀にモンゴル高原東北部に進出し、遊牧の比重を高めていった。当時モンゴル高原は契丹族が支配しており、モンゴル系・トルコ系の諸部族はその支配下に置かれた。12世紀初、女真族の建てた金が契丹族の建てた遼を滅ぼすと、金はモンゴル高原に勢力をのぼし、モンゴル系・トルコ系諸部族はその影響下に置かれた。

13世紀初になると、モンゴル族のなかでテムジンが勢力をのぼし、モンゴル族を統合し、1206年、(ア)でハンに選ばれてチンギス=ハンと称した。そしてモンゴル系・トルコ系の諸部族をまとめてモンゴル帝国^②を建てたのである。チンギス=ハンは1227年に死去するまでの約20年間に、草原・オアシス地帯に支配をひろげ、トルコ系遊牧民のナイマンや西トルキスタン・イランを支配する(イ)を倒して西北インドに侵入し、また陝西・甘肅地方の(ウ)を滅ぼしたが、その途上で病死した。

チンギス=ハン死後、モンゴル帝国のハンの地位は、オゴタイ、グユク、モンケ^③と引き継がれ、第5代のハンとなったのがフビライである。彼は自身の勢力の強い東方に支配の重心を移し、(エ)に都を定め、国名を中国風に元と称し、ついで南宋を滅ぼして中国全土を支配した。中国統治に際しては、モンゴル語を公用語とし、モンゴル伝統の側近政治^④が行なわれた。しかし中国の伝統的な官僚制度を採用し、徴税と治安維持に重点を置いて、社会や文化のありかたにはほとんど干渉しなかったため、宋代以来の大土地所有は拡大を続け、また都市では宋代以来の庶民文化が発達して元曲が流行し、(オ)、『漢宮秋』、『琵琶記』などの作品があらわれた。

設問X 文中の空欄(ア)～(オ)に入る適切な語を一つ選び、その記号をマーク解答用紙の所定欄にマークしなさい。

- | | | | |
|--------------|----------|---------|-------------|
| (ア) a クチャ | b クリルタイ | c ヒジャーズ | d ジャムチ |
| (イ) a カラ=ハン朝 | b クデイリ朝 | c バフマン朝 | d ホラズム=シャー朝 |
| (ウ) a 吐蕃 | b 大理 | c 大越 | d 西夏 |
| (エ) a 長安 | b 洛陽 | c 大都 | d 平城 |
| (オ) a 『西廂記』 | b 『桃花源記』 | c 『西遊記』 | d 『牡丹亭還魂記』 |

設問Y 文中の下線部①～⑤に関する下記の設問について、最も適切な解答を一つ選び、その記号をマーク解答用紙の所定欄にマークしなさい。

- ① 契丹(遼)に関する文として正しいものはどれか。
- a 耶律阿保機は契丹諸部族を統合して皇帝と称し、上京臨潢府を都とした。
 - b 契丹は後梁の石敬瑭の建国を援助した見返りとして、燕雲十六州を獲得した。
 - c 契丹は猛安・謀克制によって契丹族の戦力を保持する一方、燕雲十六州では州県制を維持した。
 - d 契丹の聖宗は宋の真宗との間で澶淵の盟と呼ばれる講和条約を結んだが、その内容は、契丹を兄、宋を弟とし、宋は契丹に歳幣を贈り、国境は現状維持とすることなどであった。

② モンゴル帝国の歴史の展開に関する事項が時代順に正しく並んでいるのはどれか。

- a 武人政権が倒れた高麗を属国化 → キプチャク＝ハン国の建国 → マルコ＝ポーロが帰国
→ 第2回目の日本出兵（弘安の役）
- b 武人政権が倒れた高麗を属国化 → 第2回目の日本出兵（弘安の役） → キプチャク＝ハン国の建国
→ マルコ＝ポーロが帰国
- c キプチャク＝ハン国の建国 → 武人政権が倒れた高麗を属国化 → 第2回目の日本出兵（弘安の役）
→ マルコ＝ポーロが帰国
- d キプチャク＝ハン国の建国 → マルコ＝ポーロが帰国 → 武人政権が倒れた高麗を属国化
→ 第2回目の日本出兵（弘安の役）

③ モンケ＝ハンは弟のフラグに西アジア遠征を命じた。フラグに関する説明として正しいものはどれか。

- a フラグはバグダードを占領してアッバース朝を滅ぼした。
- b フラグはモンケ＝ハン死後、ハンの地位を巡ってハイドゥと連携してフビライと対立した。
- c フラグはイラン・西トルキスタンを支配し、サライを都にイル＝ハン国を建てた。
- d フラグはラシード＝アッディーンを宰相に任命し、イクター制を導入した。

④ 南宋はこの滅亡のときまで約150年間存続した。南宋時代の説明として誤りを含むものはどれか。

- a 靖康の変で欽宗が金に捕らえられたため、その弟の高宗が江南で宋を再建し、臨安に都を置いた。
- b 南宋は金に対しては臣下の礼をとり、毎年、銀や絹を贈ることになった。
- c 金に対する政策について、和平派の秦檜らと主戦派の岳飛らが激しく対立した。
- d 朱熹は四書を儒学の根本經典とし、周敦頤・陸九淵・李贄らの学説を総合して宋学を大成した。

⑤ モンゴル語を表記するために、フビライはチベット仏教の高僧パスパに命じて新たな文字を作成させた。それはパスパ文字と呼ばれるが、つぎのうちパスパ文字はどれか。

a

b

c

d

V

下の文を読み、設問X・Yに答えなさい。解答は与えられた選択肢から最も適当なものを一つ選び、マーク解答用紙のその記号をマークしなさい。

1814年、一連の敗戦の結果ナポレオンが退位に追い込まれた後、ヨーロッパの秩序再建のため、オスマン帝国を除くヨーロッパ諸国の代表がウィーンに集まった。会議を主宰したのは、(A)で当時外相を務めていたメッテルニヒであったが、ロシア皇帝(B)をはじめとする諸国の君主や、プロイセンの首相(C)、イギリスのウェリントン公など、国を代表する政治家・外交官たちが一堂に会したのである。

各国の思惑の違いなどから、会議はなかなか進捗しなかったが、ナポレオンが(D)を脱出してパリに戻り、復位を宣言する事態となって、1815年6月、ようやく議定書の成立を見た。このウィーン議定書の原則は(E)が主張した正統主義である。正統主義とは、フランス革命以前の各国王朝を正統とし、その復活を図る考え方であった。のみならず、議定書は、ナショナリズムと自由主義の運動を抑制しつつ、ヨーロッパ列強の勢力均衡を実現することをも目指していた。このウィーン議定書に基づいて成立した国際秩序をウィーン体制と呼ぶ。1820年代以降、この体制は徐々に綻びを見せるようになったが、長くヨーロッパを中心とする世界秩序の基本となった。

設問X 文中の()に当てはまる語を選びなさい。

- | | | | |
|---|------------------|------------|-------------|
| A | a オーストリア＝ハンガリー帝国 | b オーストリア帝国 | c ハンガリー王国 |
| | d オーストリア大公国 | | |
| B | a ピョートル1世 | b ピョートル2世 | c アレクサンドル1世 |
| | d ニコライ1世 | | |
| C | a シェリング | b ハルデンベルク | c フィヒテ |
| | d モルトケ | | |
| D | a シチリア島 | b コルシカ島 | c セントヘレナ島 |
| | d エルバ島 | | |
| E | a タレーラン | b シュタイン | c オーウェン |
| | d カースルレー | | |

設問Y 文中下線部①～⑤に関して、それぞれ与えられた問いに答えなさい。

① ナポレオンが行った戦争が年代順に正しく並んでいるものを選びなさい。

- a エジプト遠征 → トラファルガーの海戦 → アウステルリッツの戦い → ロシア遠征
→ ライプツィヒの戦い
- b アウステルリッツの戦い → エジプト遠征 → トラファルガーの海戦 → ライプツィヒの戦い
→ ロシア遠征
- c トラファルガーの海戦 → エジプト遠征 → ロシア遠征 → ライプツィヒの戦い
→ アウステルリッツの戦い
- d エジプト遠征 → トラファルガーの海戦 → ライプツィヒの戦い → アウステルリッツの戦い
→ ロシア遠征

② メッテルニヒについて述べた下の文のうち、誤っているものを選びなさい。

- a メッテルニヒはナポレオンとハプスブルク家のマリ＝ルイーゼの結婚を仲介した。
- b 1810～20年代、ラテンアメリカでは独立の動きが続いた。メッテルニヒはこれを妨げようとしたが、市場拡大の思惑などから、イギリス政府は独立を支持した。
- c 1830年、ドイツ連邦各地で蜂起が企てられたが、メッテルニヒはこれらを徹底的に弾圧し、反自由主義・反ナショナリズムの貫徹を図った。
- d 1848年ウィーンで民衆の蜂起が起ると、メッテルニヒは逮捕され、処刑された。

- ③ 正統主義に基づいて行われたことがらを記述した文として、誤っているものを選びなさい。
- a フランスではルイ16世の弟ルイ18世が王位につき、ブルボン家による王政が復活した。
 - b ドイツ連邦は、ライン同盟成立直前の神聖ローマ帝国より広い版図をもつことになった。
 - c スペインではブルボン家の復権が認められ、前国王が復位した。
 - d ナポリ王国ではブルボン家の前国王が復位した。また、ナポリ王国はシチリア王国と合併して両シチリア王国となった。
- ④ ウィーン議定書で定められた、ヨーロッパ列強の勢力関係に関わることがらを記述した文として、誤っているものを選びなさい。
- a オーストリアは、北イタリア（ロンバルディア・ヴェネツィア）に領土を獲得した。
 - b オランダはオーストリア領南ネーデルラントを併せてオランダ立憲王国となったが、海外植民地のセイロン島とケープ植民地を正式にイギリスに譲った。
 - c プロイセンはワルシャワ大公国であった地域の一部、ザクセン王国の一部、またライン沿岸地域の一部などを獲得した。
 - d ポーランドは、ロシアの主張に従って、ロシア貴族を国王にいただく立憲君主国となった。
- ⑤ ウィーン体制に生じた綻びを示すできごとを記述した文として、誤っているものを選びなさい。
- a 1830年、フランスではシャルル10世の反動的な政策に反発して七月革命が起こり、自由主義的な立憲君主政が始まった。
 - b フランスの七月革命に影響を受けて、ヨーロッパ各地で自由主義やナショナリズムの動きが活発化し、ベルギーはオランダからの独立を果たした。
 - c 1848年2月、選挙権をめぐる紛争からパリで革命が起こり、七月王政は倒れて第二共和政が成立した。
 - d 1848年、ドイツ統一と憲法制定のためフランクフルト国民議会が招集され、プロイセンを中心とする大ドイツ主義によってドイツ帝国成立を目指した。

〔以下 余 白〕

